

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概要と改善の取組

4月に実施した6年生対象の全国学力・学習状況調査の調査結果概要及び今後の改善の取組について御報告します。

### 正答率概要

	国語	算数	理科
本校	58.0%	58.0%	55.0%
東京都平均	69.0%	67.0%	65.0%
全国平均	65.8%	63.2%	63.3%

### 正答数四分位概要

四分位	国語 (全14問)			算数 (全16問)			理科 (全17問)		
	本校	東京都平均	全国平均	本校	東京都平均	全国平均	本校	東京都平均	全国平均
第3四分位	12.0問	12.0問	12.0問	12.0問	14.0問	13.0問	13.0問	14.0問	14.0問
第2四分位	9.0問	10.0問	10.0問	10.0問	12.0問	11.0問	10.0問	12.0問	11.0問
第1四分位	6.0問	8.0問	7.0問	6.0問	8.0問	8.0問	6.0問	9.0問	8.0問

※「四分位数 (しぶんいすう)」とはデータを小さい順に並び替えたときに、データの数で4等分した時の区切り値のことです。4等分すると3つの区切りの値が得られ、小さいほうから「25パーセンタイル (第一四分位数)」、「50パーセンタイル (中央値)」、「75パーセンタイル (第三四分位数)」と呼びます。

国語、算数、理科の全てで東京都及び全国の平均を下回る結果となった。全国平均と比べ、国語は-7.8ポイント (東京都平均とは更に-3.2ポイント)、算数は-5.2ポイント (東京都平均とは更に-3.8ポイント)、理科は-8.3ポイント (東京都平均とは更に-1.7ポイント)であった。

また、四分位を見ると、国語、算数、理科の全てで東京都及び全国の平均正答数を下回る結果となった。本校の平均正答数は第2四分位の値である国語で9問、算数で10問、理科で10問であった。

そこで、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科の詳細分析を行い、授業改善の取組に努めていく。

## 【国語】

### 分析

「学習指導要領の内容」における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の全体にわたって、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「知識及び技能」の言葉の特徴や使い方に関する事項である。言葉を口語と文語で区別ができていなかったり、会話の中心を捉えることができていなかったりした児童が多かった。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、書くことに抵抗感をもつ児童が少なくない。どの区分も連動し、関係性が高い。そのため、主語述語の関係や思考に関わる語句の使い方、単語の知識等、語彙力を高めるとともに、授業を中心に日頃から書く経験を積ませる必要があると考える。

### 授業改善

- 国語辞書の活用（3年生以上）を積極的に取り入れて、言葉の知識を増やしていく。
- 朝読書のフル活用、読み聞かせの実施等、読書環境の充実を図り、活字に慣れ親しませていく。
- 朝学習の時間を活用し、テーマ（選択型）に合った百マス作文を書く取組を全校で実施し、書くことへの抵抗感を取り除いていく。
- 国語の授業を中心に、目的や意図に応じて自分の考えや意見を文章にまとめる活動をどの教科にも取り入れ、文章力を高めていく。

## 【算数】

### 分析

「学習指導要領の領域」における「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4区分全体にわたって、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「変化と関係」である。割合の問題において基準量や比較量を捉え、立式したうえで正確に計算をすることを苦手とする児童が少なくない。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、自分の考えを筋道立てて説明することが苦手とする児童が多い。そのため実験結果を理解し、それらを考察したうえで自分の言葉でまとめられるようにする必要がある。

### 授業改善

- 学習内容と身近な事象とを関係付け、学習への意欲につなげたり、図や数直線等の具体物を提示し、答えの求め方に必要な情報を見付け出す活動を取り入れ、筋道立てて考えていくことよさを実感させたりする。
- 東京ベーシックドリルを活用し、朝学習や授業の最初の時間を中心に、計算問題や既習事項に繰り返し取り組む機会を設定し、定着を図る。
- 立式や答えを求める過程など、式や図、言葉を用いてまとめる自力解決の場面やそれぞれの考えに触れる交流活動を設定し、コースの実態に応じながら児童一人一人の論理的思考力を高めていく。

## 【理科】

### 分析

「学習指導要領の領域」における「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4区分全体にわたって、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「地球」である。実験の結果から問題を分析、解釈し、自分の考えをまとめることを苦手としている児童が少なくない。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、自分の考えを筋道立てて説明することが苦手とする児童が多い。

### 授業改善

- 授業で実験結果から考察を基に行う際、図や表、絵などを用いながら具体的に選択し、自分の言葉でまとめさせることで、記述することへの抵抗感を減らしていく。
- 各単元のまとめをする際に、テーマや視点を与え、要点を抑えたうえでまとめさせることで、基礎基本の定着を図る。